

若者チャレンジ補助金でイギリスに短期留学！

次世代を担う人材の育成を目的に、若者の夢へのチャレンジに対して補助をおこなう「大崎町若者チャレンジ補助金」を活用して、楠隼高等学校1年の諸木康仁さん（横瀬出身）が、8月5日から10月1日の58日間イギリスに短期留学しました。諸木さんの夢や留学先での生活、学んだことを紹介します。



諸木さん(写真左)

■ 夢・目的

僕の夢は素粒子物理学者になってノーベル賞をとることです。素粒子で大切なのは小さな物に目を向け研究することだと思います。イギリスは日本と同じような気候なのに、災害に強いと聞いたので、小さな物の一つとして土に着目し、イギリスで土の性質や建物について調べることで、災害に強い土壌の秘密を調べようと思いました。

また、海外への大学進学のため、語学を習得するとともに、書道・剣道をとおして交流し、日本の良さを伝える活動もしたいと思いました。

そして、せっかくごみリサイクル率日本一の大崎町から留学するのだから、イギリスのごみ事情も調べてこようと思いました。

■ 活動報告

- **語学習得**…語学学校で英語を学びました。簡単な日常会話程度ならコミュニケーションが取れるくらいの英語力が身につきました。
- **友達100人大作戦**…日本はハンコ文化なので手作りのハンコで作った名刺を100枚準備して行きました。学校のイベントなどでそれを渡して交流し、たくさんの国の人と仲良くなることができました。
- **書道**…日本の良さを伝えるために、墨と筆で日本語を書いて見せ、それをプレゼントすると、とても喜んでくれました。
- **剣道**…ロンドンの2か所の剣道場に行き剣を交えました。海外の人も武道の心を大切にしているところに感動しました。自分の得意とする技の伝授もしました。イギリスの道場はいずれも、思っていたより日本人が多く驚きました。
- **リサイクル**…イギリスはごみの埋め立てをおこなっていました。段ボールやビンはリサ

イクルしているようでしたが、あとは外にあるトラッシュボックスに捨てていました。ホストファミリーに大崎町のごみ分別について話すと「すごいね」と驚いていました。

- **土**…イギリスのさまざまな場所から土を集めて、固めてみたり、土で作った滑台に水を流して、給水の状態、流れ方、粘り気や固まりやすさを観察・実験したりしました。

イギリスへ行き、いろいろなことを学びましたが、一番の学びは語学です。英語は学校だけが学ぶ場ではなく、日常生活にも多く学べる場がありました。例えば、人の話を聞いたり、街中にある看板の意味を読み取ってみたりと、生活すべてが学習でした。

それから、「挑戦する精神」も身に付きました。イギリスで困る場面は多くあり、はじめは勇気がなく、人に聞かず自力で何とかしよう、とばかり考えていましたが、これじゃあ意味がないと思い、誰でもいいから話しかけてみる、をモットーにしてとにかく話しかけてみました。するとみるみるだれとでも仲良くなれることに気づき、話したいことがわいてきて、自然と言ひ回しも覚えて使ってみようという気持ちになり、友達をたくさん作ることができました。

それからは、だんだんと自信がついてきていろいろなことに積極的に参加しようと思うようになり、学校のさまざまなイベントにもどんどん参加しました。苦手と思う分野でも楽しいと思えるようになりました。

「Try&Error」の精神で何ごとにも、「やってみよう」という気持ちが持てるようになったことが、この留学で得た一番の成果だったと感じています。これからも、自分の夢に向かって頑張っていこうと思っています。